

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第 35 号

令和元年(2019年)
10月1日 発行



大阪府唯一の村にある棚田（千早赤阪村）

秋空の下、公園の砂場で夢中になってお城をつくっている子どもたち。

子どもたちはいまのいまを渾身で生き抜く。それに比べて私たち大人は、はかばかしく物事が進み、はかどることばかりにとらわれている。

「はかばかし」や「はかどる」の「はか」は、もともと田んぼを区画に分かつ時に使われた言葉で、かつては「一はか、二はか」と数えたのだという。それがやがて仕事の進み具合やはかどりを意味する言葉になった。

はかばかしくあること、はかどること、そしてすべてが思い通りに進んでいくことが価値のあることと信じられている現代にあつて、子どもたちの世界には、大人が^{こしら}拵えた「はか」という尺度を押し当てて「はかる」という発想がない。

目の前にあるいまという瞬間は^{まばゆ}眩いばかりに豊かである。そのことを教えてくれた子どもたちの姿が、私に響いてくる。

（佐々木太一）

と う ひ が ん 到 彼 岸



先師の言葉に聞く

すえまつ しょうけん
西光寺 寿栄松正顕

「佛を念ずるということは、我が身の
煩惱、浅ましき生きざまが見える、と
いうことです」。これは真宗学者の曾我
量深先生の言葉です。

我が身の煩惱

親鸞聖人は、自らの煩惱に真正面か
ら向き合い続けた方です。

9歳から20年間の比叡山での修行は、
煩惱を抑え、断ち切るための修行でし

た。しかし、經典を読み、難しい修行
をしても自らの煩惱は消えません。親
鸞聖人はのちに、煩惱をなくすことが
できない我が身の事実を「煩惱具足の
凡夫」といわれました。

そして、佛を念ずることによって、
煩惱はなくなるとも、煩惱と共に
歩んでいける生きかたがあるのだと教
えていただきました。

浅ましき生きざま

私たちはどうでしょう。苦しいこと
を避け、楽しいことばかりを追い求め
て生活しています。煩惱のあるがまま
に生きているかのようです。

実際、私も嫌なことは聞きたくない
し、楽しくなること得になることは、
すぐに聞き入れてしまいます。

先日、私の大嫌いなトイレの掃除を
妻に頼まりました。数日たって気がつ
いた時には妻が済ましてくれました。

毎日トイレを使っているにもかかわらず、
掃除をほったらかしにしていまし
た。その数日間、何をしていたか忘れ
ました。ただ、妻には仕事という理由
をつけ、やらなかった言い訳をしたの
だけ覚えています。

どこまで行っても、自分中心でもの
ごとを見ているのです。しかし、こん
な自分中心な浅ましい生き方をしてい
ても、そのことにまったく気づかずに
生活している私。

佛を念ずるとは、教えの場に身を置
くことでもあります。以前、法話会で
お聞きした曾我先生の言葉に出遇って、
あらためて自分の浅ましき生きざまに
気づかされたのでした。

(令和元年7月20日、高照寺で開催の

大悲の会後援・布教大会より)



如^{によ}是^ぜ我^が聞^{もん}

大悲に生きる人とあう

願いに生きる人となる

福井教区 西雲寺 護城一哉^{ごじょう かずや}師



令和元年7月2日、本山より護城一哉総務を迎え、法友会研修会が開催されました。

ていくということが、この度の法要をお迎えする上での大きな目標の一つです。

今回は、令和5年に厳修される慶讃^{きやうさんほうえ}法会の基本理念（右

人とあう

タイトル）についてお話しいただきました。

現代を生きる私たちにとつて果たして仏教は何か意味があるのか。こんな疑問の声に

応答すべく検討が重ねられ、基本理念が掲げられました。

また教団では新たに若いご門主に法灯が引き継がれた中、念仏の教えを次の世代に伝え

大悲とは、苦悩する私たちに寄り添おうとする仏の心です。その大悲を念仏の声の響

きを通して実感されたのが法然上人でした。

法然上人と出遇われた親鸞聖人にとって、その念仏の声が大悲に根ざした阿弥陀仏の本願のよび声として聞こえてきたのです。

このことは、私たちに念仏をよろこんで歩まれている方との出遇いの大切さ、有り難さを教えてくださいます。

人となる

私たちが念仏の教えを本当に大切なものといただく人となつていくご縁はさまざまです。それは、先立つていかれた方であつたり、今を生きる有縁の方であつたり、念仏の教えを伝えてくださった先徳であるかもしれません。

その出遇いは「遇（たまた

ま）」であるとしか言いようがありませんが、そこに、世代を超え、時代を超えた広く深い仏の願いが聞こえてきます。いろんな方々、いろんなご縁の中で、気づけば私の手が合わさり、念仏をよろこぶものに育てられるのでしょうか。

場に身を置く

護城師が繰り返しおっしゃったことは、念仏の声の聞こえる場に身を置くことの大切さでした。「大悲に生きる人となう」ことも「願いに生きる人となる」ことも私の仕事ではなく、仏の大悲（＝願い）のはたらきであるということでした。一番当たり前のことでありつつ、一番大切なことを基本理念は教えてくれていると感じました。

（門川崇志 記）

し ば り ょ う た ろ う 司馬遼太郎記念館



特別に撮影許可をいただいた「大書棚」



書斎



記念館の入口

【アクセス】

- ・近鉄奈良線「河内小阪駅」下車
徒歩約12分
- ・近鉄奈良線「八戸ノ里駅」下車
徒歩約8分

司馬遼太郎記念館は東大阪市の住宅街にあったご本人の自宅と隣接地に建つ安藤忠雄さん設計のコンクリート打ちっ放しの建物で構成され、二〇〇一年十一月に開館しました。

展示室・ホール・庭

記念館のコンセプトは「見る」というより「感じる」「考える」記念館だといいます。その代表が、安藤さん設計の新設部分に展開する、高さ十一メートル三階吹き抜けの大書棚です。約二万冊の蔵書の世界が広がり、まさに司馬遼太郎の精神を感じることのできる空間です。

百五十席のホールでは、司馬さんの生涯を振り返る「時空の旅人」他を上映。また企画展・

講演会・コンサートも開催されます。司馬さんの好きだった雑木林風の庭の小径から、窓越しにご自宅の書斎を間近にご覧いただけます。

エッセイ「悪童たちと凡夫」

このエッセイは、司馬さんが旧制上宮中学校時代の国語教師、葦名信行先生（高槻市妙圓寺の前々住職）から「凡夫」という言葉を教わった授業で、先生が「日本の歴史上の人物の中でだれが最初に凡夫であると悟られたか（中略）それは、法然上人と親鸞聖人や」と語られた旨が『司馬遼太郎が考えたこと4』に収録されています。佛光寺派とも深い縁のあるこの記念館で大いに司馬文学の心を体感ください。オリジナルグッズやカフェもあります。（長田 譲）

ごえんさんを訪ねて

れいしゅうじ

霊松寺

(大阪市住之江区)

わきさか よしひと

脇阪義仁 住職



霊松寺はもともと摂津国嶋上郡(現在の高槻市天神町)にあり、黄牛山霊松寺と称する曹洞宗の寺院でした。

応永19(1412)年、釋道泰が佛光寺派第11代門主性曇上人に帰依し、応永25(1418)年、現在地に御堂を建立しました。その後、寛文4(1664)年に粉浜山霊松寺と改号、現在の本堂は寛保4(1744)年、第11代釋義空により再建されました。

住職継職

現住職は平成28年に第20代住職となりました。「継職して3年近く経ちますが50年間住職を務めてきた前住職の存在の大きさを門徒や法務を通してひしひし感じています。そして4年後に厳修される慶讃法会に向けて門徒と気持ちを盛り上げて法要を迎えたいです。また同年に霊松寺草創六百年の記念法要を計画し



本堂内陣

ています」とお話しいただきました。さらに門徒と共に真摯にお念仏の教えを聴聞していきたいという思いも語っていただきました。

式務衆と布教使

10年前に本山の法要に携わる御堂式務衆、6年前に布教使の資格を取得され、式務衆としても布教使としても活躍されています。

前住職は50年近く式務衆として活躍されているので「何かアドバイスはありましたか」とお尋ねすると「何事も資格を持つことには覚悟がいるぞ」とひと言だけいわれたことが心に残っているそうです。

また学生時代には日本スキー連盟のスキー検定2級を取得されインストラクターもしていたとのこと。「いつか子どもたちと一緒にスキーに行きたいですが、まずは体重をなんとかしないと」と笑っておられました。

この度、取材に伺った3日前に男児が誕生され、ますます責任と覚悟を持って法務に励みたいと決意を語ってくださいました。

(玉出宗順)

■霊松寺(れいしゅうじ)

〒559-0001

大阪市住之江区粉浜3-1-20

電話 06-6672-3807

Fax 06-6672-3823

大悲トピックス

■佛青懇和会・聖跡参拝研修

7月11・12日に佛青懇和会聖跡参拝研修
(香川・高松方面)が開催されました。

初日は妙好人、庄松さんゆかりの真宗興正
派勝覚寺に参拝。庄松さん所縁の経本など間
近に見せていただき感動しました。

その日の夕食には香川・徳島から友人が集
まってくれて賑やかな夜を過ごしました。

最終日にはうずしお観潮船に乗り、大きな
渦潮を目にして自然が織りなす迫力ある音と
風景にただ感嘆の声を上げるばかりでした。

(佛青懇和会会長 玉出宗順)



境内に建つ庄松さんと一緒に

■大阪別院・大阪市指定文化財特別公開

8月28・30日、大阪別院本堂にて別院宝物
特別公開(主催:大阪密教美術保存会・真宗
関係史料保存会・大阪市教育委員会、共催:
朝日新聞社)を開催しました。

別院の本尊である「木造阿弥陀如来立像」
は、製作年代が鎌倉時代(13世紀後半)にさ
かのぼるとされます。また江戸時代の製作と
される「木造親鸞聖人座像」、そして本年大
阪市文化財保護課の勧めで修復された「絹本
着色方便法身阿弥陀
如来画像」(15世紀製
作)も公開すること
となりました。

初日は大雨でした
が待ち構えた人びと
で満堂となり、皆さ
まの関心の高さに主
催者も驚いている様
子でした。

(大阪別院輪番 葦名 彰)



特別公開の様子

■懇志御礼

兵庫県芦屋市 如来寺様

- 大正三年創業の信頼と実績 -

石留石材株式会社

各種石塔・石仏・記念碑
寺社建築石材まで

○ご相談は下記フリーダイヤルへ 携帯・PHS OK

0120-53-5578

[本社・工場・展示場] 藤井寺市津堂2丁目9番29号

本山佛光寺 御用達

石の総合メーカー

株式会社 石留石材

ホームページ

<http://www.ishitome.co.jp>

本社:京都市中京区堀川御池角

TEL 075-841-1149 FAX 075-812-5826

御本山 近 用達

株式会社 川勝法衣店

フリーダイヤル 0120-075-055

(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入

電話 (075) 371-0367(代)

FAX (075) 371-5088

浜屋は関西最大級の
お仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の
専門店です。

やすらぎの
世界を創る



浜屋

通話料無料/浜屋姫路本社フリーダイヤル

お問い合わせ
お申し込みは

0120-1616-94

●受付時間/午前10時～午後6時30分

燦ホールディングス グループ

まごころ葬儀を創造する。

公益社

公益社 ご葬儀相談センター (24時間・365日受付・通話料無料・携帯電話OK。)

0120-567-701

※2012年5月現在 2-0131

燦ホールディングス グループ

なごみ庵



きたはま
KITAHAMA

法要料理

希望の場所までお届けします。

■四條畷店
■瓜破店
■伊丹店

☎0743-78-7521

☎06-6769-0140

☎072-773-7531

※2012年5月現在 2-0132

だいひ 絵日記

7月 2日 (火) 法友会研修会 ①

(大悲に生きる人とあう 願いに生きる人となる・講師：護城一哉 師)

7月 11日 (木) 佛青懇和会聖跡参拝研修 (高松方面) (～ 12 日)

7月 18日 (木) さつき会研修会 (本山坊守研修会参加)

7月 18日 (木) 大悲の会編集会議 (第 35 号読み合わせ)

7月 20日 (土) 大悲の会後援・布教大会 (高照寺にて) ②

8月 13日 (火) 大阪別院孟蘭盆会 (～ 15 日)

8月 26日 (月) 大悲の会編集会議 (第 35 号読み合わせ)

9月 6日 (金) 佛青懇和会懇親会

9月 19日 (木) さつき会研修会 (微笑会による紙芝居の発表)

9月 19日 (木) 法友会研修会 (真宗における救いとは・講師：一楽 真 師)

9月 20日 (金) 大阪別院彼岸会 (法話：寿栄松正顕 師)

9月 23日 (月) 大阪別院彼岸会 (法話：脇阪義仁 師)

9月 25日 (水) 大悲の会編集会議 (第 35 号発送作業・第 36 号内容検討)

9月 26日 (木) 大阪別院彼岸会 (法話：行友伸二 師)

(法友会＝住職会、さつき会＝坊守会、佛青懇和会＝青年会)



沙羅
寺院コム
<http://jiin.com>

ご寺院、お役に立てる商品が、
きっと見つかる情報誌！

寺がある、法が活きる、寺の友社。



株式
会社 寺の友社

〒611-0002 京都府宇治市木幡平尾54番地の2
TEL 0120-7676-39 FAX 0120-7676-29
<http://www.teratomo.jp>

ご希望の、ご寺院には、無料カタログをお送りします。

表具 八木米寿堂

御本尊掛軸修理 絵画、書の表装

〒600-8073

京都市下京区柳馬場通仏光寺上る

tel 075-351-2853 fax 075-352-3258

協 賛

法 友 会
さ つ き 会
佛 青 懇 和 会

■ 広告募集 (『大悲』発行は広告によって支えられています)

企業・団体・寺院の広告を誌面に掲載させていただきます。
1 区画 (55 mm × 40 mm)、掲載 1 回につき 5,000 円です。

■ 定期購読 (ご門徒の皆様方にもお渡しください)

『大悲』の定期購読は、1 部につき 30 円です (送料込)。10 部単位でお願いいたします。



どなた様でもお参りいただけます

法要・法話会のご案内



本山佛光寺茶所布教

毎日午前 7 時半

※大阪教区布教使の担当は下記の通りです

12 月 11 日（水）～ 20 日（金）

法話：門川崇志 師（浄方寺）

大阪教区寺院で開催される法話会

◎正念寺（大阪市東住吉区・06-6714-3109）

12 月 7 日（土）午後 2 時

「正念寺仏教セミナー」

法話：鎌田顕道 師

大阪別院 報恩講

10 月 27 日（日）午後 2 時より

勤行・挨拶・法話

法話：長田 譲 師（大阪・正念寺）

編集秘話

司馬遼太郎記念館へは四度足を運びました。最初は下見、二度目は館内の撮影許可の交渉。三度目はテニス仲間のプロのカメラマンを連れて。四度目は写真・原稿の確認。あの「大書棚」の写真は記念館事務局から許されたアングルで撮影。事務局曰く「大書棚の迫力は、来館して観て感じて下さい」とのことでした。（長田）

編集後記

「大悲トピックス」に掲載しました大阪別院の「阿弥陀如来像特別公開」。驚くほどたくさんの方が拝観されていました。私自身、ご本尊についての解説で初めて知らされたことも。★ご本尊とは「本当に尊いこと」であるといわれています。10 月の大阪別院報恩講では、阿弥陀如来の願いに耳を傾けたいと思います。（隅谷）

大阪教区・別院だより『大悲』 第 35 号（秋号）
令和元年（2019 年）10 月 1 日発行（発行部数 2200 部）

発行：大悲の会

事務所：佛光寺大阪別院内

〒558-0011 大阪市住吉区荻田 6-11-24 電話 06-6691-1362

郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」

大悲ホームページ <http://daihi.org/>

大悲の会

長田 譲（会長）

隅谷俊紀（副会長）

寿栄松正顕（会計）

玉出宗順（会計）

門川崇志（監事）

佐々木太一

葦名 彰